

■田宮流春の講習会 令和四年五月二十二日■



令和四年五月二十二日、松田体育館にて田宮流の春期講習会が行われました。神明会からは、清水会長、杉山氏、吉村氏、私三宅（父）三宅咲綺（娘）の五名が参加し、午前中は、田宮流組太刀『太刀態』の講習で、一般的に技を演武する側を仕太刀、技を受ける方が、打太刀と言いますが、田宮流組太刀での名称は、前者が主太刀で後者が受太刀と呼びます。中太刀の形7本（各技には名前は無く何本目と言います）脇差の形3本の計10本です。この『太刀態』は、元々四国の西条藩（紀州徳川家分家）に伝わった我々が学ぶ田宮流の系譜には有りませんでした。

窪田派田宮流について・・・

紀州田宮流の田宮朝成に師事した紀州藩士 斉木 三右衛門清勝（1673~81年没）の系統から伝わり、江戸時代後期の幕府旗本 窪田清音（くぼたすがね1789~1866年没）へ伝わり、1841年徳川家慶への上覧をきっかけに、**窪田派田宮流**として全国に認知される。

窪田清音は1855年幕府講武所が新設されると兵法、武術、古伝研究の第一人者として、講武所の頭取兼師範役に就任。色々な武術書籍を執筆している。この窪田派田宮流の組太刀『太刀態』を先代の正麟宗家が、現在我々が学ぶ田宮流の形に組み入れたとの事です。

剣術流派に見られる敵の刀を自身の刀で抑える使い方（ハリドメ）などが多く有り、田宮流の形上の防御は、受け当てるか、受け流すになっていますが、この刀身の使い方慣れれば、巻き落として崩したりと応用が利きそうで面白いと思いました。

美味しいお弁当を頂いて、午後からは表の巻きの形を稽古しました。杉山氏と三宅（咲）は、興石先生に技を教わり、二人とも筋が良いかもと言われていましたので、基本はやはり清水会長の仕込みが効いているのだなあと思いました。

記：元新